

◀遊技産業活性化プロジェクトを協議した正副会長会議



遊技産業活性化プロジェクト 羽根物、普通機の促進

長期戦略のシステムも

正副会長会議（遊技産業活性化PT）が4月8日、日遊協本部会議室で開かれた。遊技産業活性化のたたき台として、①大衆娯楽としての支持獲得、ファン離れ対策 ②業界の高コスト体質の改善 ③適正な賞品流通——などがメモ形式で提出された。

チスロのイメージアップのための仕掛け（及び仕掛け人）を検討すること、健全化のための賞品流通の確保を図ること、射幸性を下げるための措置として、風営法施行規則の検討等を要望していくこと——などの意見が出された。

今後の方向として、遊技機に関して含めて業界トータルで考えていくこと、そのため、遊技機メーカーにプロジェクトチーム参加を要請し、第3の遊技機開発などを含めて考えていくこと、パチンコ・パ

1、2時間遊べる遊技機、店の環境、営業スタイルの研究、とくに最近再び注目されている羽根物、普通機などの運用促進が検討された。このほか、インパクトがあり社会的にも支持されると思われる施策として「全国全ホールの禁煙」や、長期的な戦略の1つとして、風営法の規制下でホールが運営する、PC、スマートフォン、携帯電話用のバーチャル・パチンコシステムが提案された。

砂地の植林を視察

仙台に備え九十九里で

社会貢献・環境対策委員会は4月25日、千葉県九十九里町で行わ



苗木が並ぶ植林現場を視察する社会貢献・環境対策委員会一行

苗木が定植するまで山地での植林にはないノウハウが必要なことがわかった。海岸防災林として成長するまで、概ね10年間は苗木の補植等のメンテナンスが必要という。（8ページに関連記事）

警察庁と連絡会議 日遊協活動を報告

現況と今後で意見交換

警察庁と日遊協の今年最初の連絡会議が4月18日、東京・グランドアーク半蔵門で開かれた。警察庁から担当官のご出席をいただき、日遊協からは深谷友尋会長はじめ副会長、専務理事、常務理事、相談役の12名が出席した。

深谷会長は数字をあげて業界の厳しい状況を報告し、正しい産業の発展のために「遊技産業活性化プロジェクト」を立ち上げたことを説明し、他出席者も補足説明を行った。新公益法人制度への対応として一般社団法人への移行を決議したこと、遊技産業健全化推進機構、貯玉補償基金、ホール関係5団体の活動、各委員会活動などについて説明した。引き続き、産業界の現況と今後のあり方について意見が交換された。

九州支部総会・講演会

「プライドを持って」
産業の未来へ樋口支部長



長の来賓あいさつのあと、諏訪東京理科大学篠原菊紀教授が「ばちんこを社会に生かすく健ばちと介護予防、快感商売の基礎」と題してパチンコの未来の可能性について話した。

日遊協九州支部総会が4月17日、福岡市・グラント・ハイアット福岡で開かれ、講演会、懇親会も合わせて会員の教育・交流を深めた。

総会のはじめに樋口益次郎支部長が「遊技人口の減少に歯止めがかからない。日遊協は唯一の横断的組織として、自分たちの保全ではなく、産業の未来のためにプ

ライドを持ってやれることは沢山ある。我々の未来について皆様と議論していきたい」とあいさつした。深谷会長「低料金、短時間を」

来賓の深谷会長は「お客様の使用金額が大きくなっている。危険な兆候で、低料金、短時間遊技の道を切り開いていかねばならない。お客様の願いを汲んで新しいステージを確立していこう」と問題提起した。

九州支部総会で議事進行に集中する会場



35社出席（委任15社）の出席状況の報告のあと福山裕治副支部長が平成24年度九州支部活動を、伊東慎吾常務理事が平成24年度本部活動報告を行った。また、八坂真吾副支部長が平成24年ボランティア基金の収支、樋口支部長が平成25年度支部重点推進事項について説明した。

講演会は、九州管区警察局広域調整第一課久留米英樹次席、福岡県遊協金本正浩理事

総会であいさつする樋口支部長

北海道支部拡大大会員交流会

裾野拡大へ60人参加

深谷会長、篠原専務が講演

北海道支部拡大大会員交流会が4月9日、札幌市の京王プラザホテル札幌で開かれ、会員等34社60人が参加した。本部から深谷友尋会長、篠原弘志専務理事が出席した。冒頭、松谷明良支部長は、「日遊協設立から25年を経過したが、北海道支部の正会員が少ない現状で、支部長として裾野を拡大したい気持ちに形に表したものがこの拡大交流会だ。今年で3回目を数え、垣根を越えた横断的行事に多数ご参加いただいたことに感謝する」と挨拶した。

第1部のセミナーで、深谷会長

が「遊技産業活性化プロジェクト〜ファン拡大に向けた日遊協の新たな取組〜」と題して、現在進行中の活性化プロジェクトの動きを講演した。続いて篠原専務理事が「風営法の当面の諸問題」と題し、消費税アップへの対応、日工組のECO遊技機、風営法改善検討作業などについて講演した。第2部の懇親会では関連団体の代表者たちが一堂に会し、和気あいあいと懇談した。

中国・四国支部支部長等会議

会員獲得策などを協議

中国・四国支部は3月25日、支部事務局で支部長・副支部長会議を開き後藤信行支部長と3名の副支部長が出席し、会員拡大と退会阻止対策、支部活動の活性化、支部総会の要領などについて協議した。会員獲得については健全営業、社会貢献といった理論のみでは限界があり、横断的組織として業界に不可欠な存在である観点に立ち、組織の在り方を検討する必要があるとの意見が出された。新規会員を1社獲得したことが報告された。総会の準備、清掃活動などの社会貢献などについても協議した。

「金融緩和を生かして」

福井支部長、現状打破へ

日遊協近畿支部総会及びセミナーが4月19日、大阪市・KKRホテル大阪で開かれた。総会冒頭に福井支部長が「お客様の減少、低貸玉への傾斜、若者離れなど厳しい状況が続いている。ただ、いわゆる金融緩和のアベノミクスで2年間で150兆円が生まれることを見逃す手はない。団塊の世代は時間を持てあましていとも言うわれている。大衆娯楽としてパチンコの楽しさを広め、社会のためになる業界をめざしたい」とあいさつした。

のは、マナーの悪い客と従業員がいること。原点にかえって心からホスピタリティーをチェックしていただきたい」と強調した。来賓として近畿管区警察局長広域

深谷友尋会長が登壇し「現在のような状況では特にお客様に合った営業方針が必要だ。そのための〈活性化プロジェクト〉を起爆剤としたい。一番喜ばれる店とはどんな店だろうか。それは質のいいお客様がいる店だ。統計からも若い世代が最も嫌う

総会であいさつする福井支部長



深谷会長があいさつする総会会場



近畿支部セキュリティ対策部会の講演が行われた

調整第一課中道宣人課長補佐があいさつしたあと、本部の伊東慎吾常務理事が日遊協活動報告を行い、総会は終了した。

110人を超える参加者となった第二部のセミナーは、最初に(株)グローバルミックス勝見博光代表取締役が「オーストラリアのカジノクラブに見るコミュニティパチンコの可能性」と題して講演した。続いて日遊協篠原弘志専務理事が「業界の最近の諸情勢」について講演、近畿支部セキュリティ対策部会による「スロットARTゴトの事例紹介と対策」の報告があった。

懇親会は各県協同組合の幹部の方々をはじめお客様でにぎわい、なごやかに進化した。

中部支部役員会

新年度方針をまとめる

中部支部は3月19日、名古屋市・アイリス愛知で支部役員会を開き、山口悟支部長以下7人が出席して当面の課題について検討した。

①会員の獲得については、特にホール会員の増加をめざし副支部長の増強による役員体制の強化を行う ②セキュリティ対策については、他団体との情報交換など

積極的な活動がおこなわれているので、それを会員の情報の共有化にもっと結びつける ③ボランティア活動、店長・管理職能力開発講習・試験などの取り組みは弱いので、積極的な取り組みをはかる——ことなどを確認して、平成25年度の支部活動方針をまとめた。

中部支部セキュリティ対策部会

目代純平氏が講演

中部支部セキュリティ対策部会が3月26日、名古屋市・アイリス愛知で開かれ山口悟支部長、内ヶ島隆寛部会長ら20人、中部遊商から河合敏夫セキュリティ委員、会委員長ら3人が出席した。ゴト情報として、パチンコでは磁石などのローテクゴト、パチスロでは相変わらずARTを狙った電磁波やショットのゴトが多いと報告された。チェックフィールド株式会社が社目代純平代表取締役が「台頭するケータイゲームの現状と遊技産業に与える影響について」と題して講演し、「親が簡単にスマートフォン等を子どもに与えるのは危険であり、親がしっかり説明や制限をして守っていく必要がある」と強調した。